

平成21年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」結果のまとめ

1 実施目的	生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、今後の教育行政及び各学校における学習指導の改善に役立てるために実施
2 実施調査	1年生：国語，数学，英語，質問紙調査 2年生：質問紙調査
3 実施対象	県内の公立高校1年生 約14,400人 県内の公立高校2年生 約14,900人
4 実施期間	平成21年10月13日（火）から10月19日（月）

5 1学年教科別学力状況調査結果の主な特徴			
教科	分析結果	正答率 (昨年度)	正答率が上昇した学校の主な取組
国語	○ 全体的な力は昨年度と同程度，論理的に読み解く力が不足 ・日常生活レベルの語彙については良好。 ・論理の展開をたどり，要旨を的確にとらえる力を問う問題の正答率は低い。	52.9 (52.9)	○「学び直し」等，導入期に中学校段階の内容を復習し，基礎学力を定着させる取組
	○ 基礎的・基本的な力は昨年度と同程度，応用力・活用力が不足 ・基礎的・基本的な問題は昨年度と同レベル。 ・記号の理解や文章題から式を立てる問題，式で省略された数やグラフから必要な情報を読み取る問題の正答率が低い。	51.2 (54.4)	○「学習記録簿」の活用，「平日及び週末の宿題や小テスト」等の家庭学習の習慣付けを徹底する取組 ○「朝学習」「朝読書」や「放課後の学習会」等の，学校での学習時間を確保する取組
英語	○ 基本的な力は身に付いているが，応用的な力は不足 ・基礎的・基本的な語彙や文法，リスニング，読解については正答率が高い。 ・複雑な情報整理や文脈を読み取るような発展的・応用的な分野の正答率が低い。	55.2	○生徒一人ひとりの理解と学ぶ意欲を重視した授業改善の取組

6 1学年・2学年意識調査結果の主な特徴		
学年	分析結果（具体的な数値は7ページ以降）	学校をあげての活動や取組
1学年	○大学進学希望者が増加。 ○「授業が理解できる」が増加。 ○家庭学習の時間は全体的に増加。 ○家庭学習で「集中できない」ことが悩み。原因は，「テレビやビデオ」，「電話やメール」，「ゲームやパソコン」。 ○正答率の高い生徒は，毎日一定の学習時間を確保。宿題や小テストで学習習慣を確立している。	○「分かる授業」，「考える授業」を目標とした組織的な授業改善への取組 ○県の授業力の向上を支援する事業等の活用 ○家庭学習時間確保のための家庭との連携 ○進路希望の選択や学習での悩みに対する面談指導の充実
	○大学進学希望者が増加。 ○「授業が理解できる」が増加。 ○家庭学習の時間は前年と同程度だが，1年次より減少。 ○家庭学習での悩みは「集中できない」。原因の1位は，「テレビやビデオ」。 ○朝食を摂る習慣は1年次で確立している。	

【考察】

- 高校入学後半年経過しての1年生の学力状況については，国語・数学における基礎的・基本的な力は同程度であるが，読み取ったことをもとに考える力，図やグラフの性質を活用して思考する力が不足している。英語についても，基礎的・基本的な力は身に付いているが，発展的・応用的な力が不足している。
- 1・2年とも，「家庭学習時間」・「授業を理解している」割合が増加しているものの，1年次よりも2年次で学習していない割合が増加している。
- 学校が学力・学習状況調査を活用し，組織的に授業改善等に取り組んだ結果，成果が上がっているケースが多く，県の事業である授業力向上支援事業により，組織的に授業改善に取り組む高校が増加している。

平成21年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」 結果の概要

I 調査の概要等

第1学年

- (1) 生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、今後の教育行政及び各学校における学習指導の改善に役立てるために実施
- (2) 公立（県立・石巻市立）高等学校の79校の1年生、県内の約14,400人を対象に、平成21年10月13日（火）から10月19日（月）までの間、各学校で実施

①学力状況調査

〔調査実施教科〕

- ・国語、数学、英語の3教科の学力状況調査
(ただし、数学は各学校の履修に応じて問題を選択し、定時制課程は教科数を減じて実施できる。
定時制課程11校中7校で教科数を減じた。)
- ・国語、数学、英語の作問に当たっては、学習指導要領の目標・内容に照らし、平均正答率を60%と設定して作成
- ・英語の作問は、昨年までの「宮城県版英語検定」に替えて国語と数学と同様とした

〔調査実施人数〕

国語	13,479人
数学	13,387人
英語	13,461人

②質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査 13,820人

第2学年

- (1) 生徒の学習状況及び進路意識等を調査分析し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てるために実施。
- (2) 公立（県立・石巻市立）高等学校の80校の2年生、県内の約14,900人を対象に、平成21年10月13日（火）から10月19日（月）までの間、各学校で実施

①質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査 13,776人

Ⅱ 調査結果の概要と分析

1 1学年学力状況調査の教科別結果

国語

正答率は、52.9%（昨年52.9%）

○ 全体的な力は昨年と同程度、論理的に読み解く力が不足

言語事項に関する設問のうち、日常生活でよく用いるレベルのものについては概ね良好。使用頻度の低い言葉、論理の展開をたどり要旨を的確にとらえる力、正確に読む力を問う問題の正答率が低い。

古文の正答率は昨年より若干上昇したものの、まだ不十分。

数学

正答率は、51.2%（昨年54.4%）

○ 基礎的・基本的な力は昨年度と同程度、図形・関数分野の応用力・活用力が不足

基礎的・基本的な力は昨年度と同じ設問で比較すると、正答率が±3ポイント内の差で、ほぼ同程度であるが、記号の本質的な意味の理解を問う問題、文章を読んで式を立てる問題、式で省略された数を読み取る問題及びグラフや図形の性質を活用して総合的に思考する問題の正答率は低かった。

英語

正答率は、55.2%（昨年までは、宮城県版英検を実施）

○ 基礎的な力は身に付いているが、応用的な力は不足

基礎的・基本的な語彙や文法、リスニング、読解については、概ねよく理解できている。複雑な情報整理や文脈を読み取るような発展的・応用的な分野の理解力はまだ不十分であり、実践的な訓練が必要である。

図1 国語・数学・英語の正答率の推移

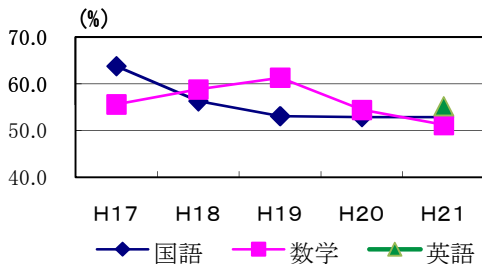
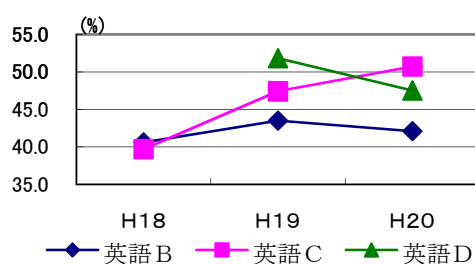


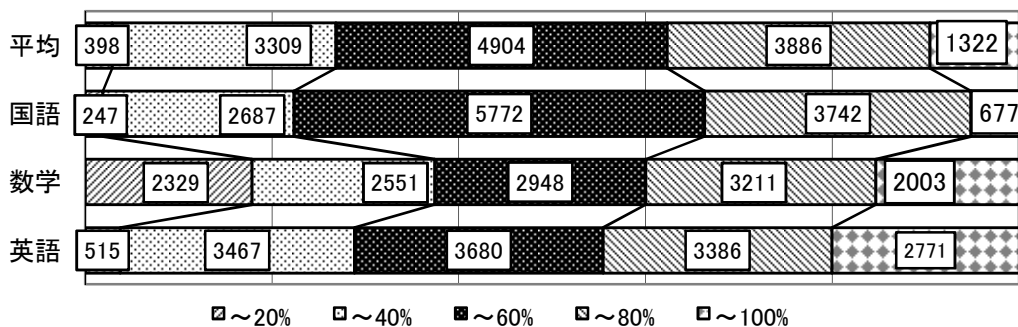
図2 昨年度までの英語(宮城県版英検)の正答率の推移



<各正答率の度数分布状況(人)>

正答率	～20%	～40%	～60%	～80%	～100%
3科目平均	398	3309	4904	3886	1322
国語	247	2687	5772	3742	677
数学	2329	2551	2948	3211	2003
英語	515	3467	3680	3386	2771

図3 各科目及び3科目正答率平均の度数分布(人)



2 1 学年学力状況調査の結果分析と改善の方向

国語

◎分析と課題 (◇…相当数の生徒ができています。 ◆…課題がある。)

◇平易な漢字の書き、文節、主語・述語の関係については、概ね理解できている。

◆使用頻度の低い漢字の読み書き、慣用句についての理解が不十分である。

◆敬語表現、助動詞の用法についての理解が不足している。

⇒ **課題1：社会人として必要な言語能力の基礎、表現力や読解力の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能が十分身に付いていない。**

◇身近な題材を扱った文学的な文章について、情景や場面の展開を読み取ることができる。

◆論理的な文章について、形式段落ごとの論理の展開をたどり、要旨を的確にとらえる力が不足している。

◆文学的な文章について、人物の行動描写から心情を推察する力が弱い。

⇒ **課題2：論の構成をふまえた丁寧な読み方、キーワードなど重要な表現に含まれる筆者の意図や考えの読み取り方、細やかな表現に込められた心情描写の読み取り方等の指導により一層の工夫が必要である。**

◆基礎的な古語や文法等、古文を読むための知識・技能が十分身に付いていない。

◆古典を読むことに不慣れで、展開に即して内容を正しく読み取る力が不足している。

⇒ **課題3：古典に親しませ、その現代的な価値やおもしろさに気付かせるような指導の工夫が必要である。**

◎改善の方向



①基礎的・基本的な言語能力を確実に身に付けさせるために、話す・聞く・書く・読む活動と結びつけた指導や社会生活全般を意識した指導を工夫する。

- ・漢字や語彙の指導は、辞書を用いて字義を確認し、音と訓とを関連付けたり、語例や文例を複数挙げるなど、学習過程に様々な言語活動を取り入れる。
- ・敬語表現や助動詞の指導は、具体的に設定した場面での学習活動を工夫し、実生活と関連付けた指導を意識する。

②論理的な文章を扱う場合には、形式段落単位での論旨の展開を読み取らせるための発問や指導法を、また、文学的な文章を扱う場合には、細やかな行動描写などの表現から適切に心情を読み取らせるための発問や指導法を工夫する。

- ・意欲的かつ能動的な読みの姿勢を喚起するため、授業における個々人の「気づき」を大切に、話し合い等により考えを深める活動を工夫する。
- ・評論文を構想メモや構造図に整理し要約する、小説の人物、情景、展開、表現の特徴を整理する等、書いてまとめ、読みのポイントを確認できるワークシートを工夫する。

③古典への興味・関心を高めるために、教材や学習活動を工夫する。

- ・音読、朗読によって古典の文体やリズム感を味わわせたり、名文を暗唱させたりする。
- ・現代でも使用されている語や古典特有の表現を足がかりにし、辞書等を十分に活用する。
- ・古典原文だけでなく、その現代語訳の利用を図ったり、古典に関する解説文、小説、随筆、評論等も広く取り上げ、紹介したり読ませたりする。
- ・古典を現代語訳するだけでなく、物語の登場人物の視点から作品を書き換える、随筆の筆者の視点に倣って随筆を書くなど、教材に応じて発展的に書く活動をさせる。

④語彙力、言語感覚、読解力、表現力等、国語力を総合的に育成するために幅広く読書させる。

- ・授業教材から発展し、同テーマを別の視点で書いた文章と読み比べたり、同著者の他の作品へと読み広げたりさせる。
- ・ブックトーク、ブックレビュー等の読書活動・読書指導を、学校図書館も活用しながら計画的に授業に組み込み、読書意欲を喚起する。

⑤国語に対する生徒の学習意欲を一層高め、これからの時代に求められる論理的な思考力や表現力を育成するために、教材や学習活動を工夫する。

- ・読むことの指導過程に、発表、討論、ディベート等の話す・聞く活動や、記録、要約、リライト、鑑賞、批評、論説等の書く活動も取り入れる。
- ・新聞、雑誌などの記事を収集し、事実と意見をまとめたり、比較・分析したりさせる。
- ・図表など文章以外の資料を分析し、根拠に基づき自分の考えをまとめて書かせる。

数学

◎分析と課題

(◇…相当数の生徒ができている。 ◆…課題がある。)

◇基礎・基本を問う問題については、正答率が高いことから、その指導が充実してきていることが窺える。

◆複数の文字を扱う問題では1つの文字に着目して整理することのよさや、二次関数の値がどのように変化するかを、グラフを通して調べる姿勢が身に付いていない。

⇒ **課題1：数学を学ぶ楽しさや学ぶ意欲を向上させる指導、根気強く考えさせる指導の工夫が必要である。**

◇公式を用いて答えを求めることは比較的身に付いている。

◆公式が成り立つ理由を考える過程や、その過程を応用して解く問題の正答率が低い。

◆文字の値を変化させてグラフの位置を考察し、その変化にともない最大・最小となる場合を論理的に分析する力が不足している。

⇒ **課題2：公式や定理がなぜ成り立つのかを考えることや、グラフの値の変化について視点を変えて考察するなど、様々な数学的活動を通して論理的に思考させる機会が少ない。**

◇基本的な計算の力、簡単な方程式・不等式の解法など、正しい式変形を確実に行えば必然的に正答が得られるような問題の正答率が高い。

◆グラフから通る点を読み取り二次関数の式を求める問題は、頂点がすぐ読み取れるにもかかわらず正答率が低い。

◆問題文から式を立てる段階での誤りが多く、問題文が長い設問・文章が複雑である設問・「距離・時間・速さ」の関係を問う設問は正答率が急激に下がる。

⇒ **課題3：数学の用語や記号を用いて書かれた文章を、式やグラフ・図を用いて表現することや、式やグラフ・図から必要な情報を読み取り、それを活用する力が不足している。**



◎改善の方向

①数学を学ぶ意欲を向上させるために、数学を学習する楽しさや意義、数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

- ・日常生活で体験する事柄を数学化するなど、現実の生活を反映した問題を多く扱い、生徒がその内容の必要性を感じられるような授業展開を考える。
- ・生徒が興味や関心を持つことができる内容をできるだけ多く扱う。

②論理的に思考する力を育成するために、思考力を互いに高め合う指導を工夫する。

- ・授業中の発問を工夫し、生徒に気付かせたり、生徒のつまずきを生かす視点をもつ。
- ・一般化することを急がず、公式や定理を導く過程を具体的な場合で振り返る。
- ・問題の解法が公式や定理を導く過程と一致しているものを扱い、公式や定理が役に立つことに気付かせる指導を工夫する。
- ・発表や検討（練り合い）などの様々な数学的活動を授業に取り入れて、自分の考えを論理的に思考させる機会を設定する。

③論理的に表現する力を育成するために、用語・記号を丁寧に説明するだけでなく、数学的な表現に慣れさせる工夫をする。

- ・数学で用いられる用語や記号の指導、省略された数字を読み取る指導を工夫し、事象を自分の言葉で表現させ、その表現をさらに数学的な表現に発展させていく工夫をする。

④数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを理解し処理するために、グラフや図を活用しながら、常に具体化させて思考させることを重視する。

- ・ICTを活用するなどして、文字を含む式で与えられた図形やグラフが、文字の値の変化にともなってどのように変化していくかを視覚的にとらえさせたりするなど、変化や動きを実感させる様々な指導を工夫する。
- ・与えられた条件式を、式変形だけで思考させず、グラフや表を利用して変化の様子や成り立つ関係を予想させる。また、図形を用いて関係を表現し、位置関係や性質を理解することによって状況を把握していくなど、様々な方法を用いて思考させる工夫をする。

英語

◎分析と課題

(◇…相当数の生徒ができています。 ◆…課題がある。)

◇簡潔で基礎的な表現については概ねよく理解できている。
◆中学校後半以降に学習する語彙レベルの英文や、位置関係・時間軸などやや複雑な情報整理が要求される英文を聞き取る段階になると、内容理解に至る力が不足している。

⇒ **課題 1：多くの英文に触れる経験が足りず、語彙や表現を理解する力が不足している。**

◇基本的な語彙、文法・語法については、一定の定着が図られている。
◆会話に使われる基本的な表現に対する理解が不足しており、また文の前後関係や相手とのやりとりから流れを判断する問題では正答率が低い。

⇒ **課題 2：基本的な語彙や文法の知識が、会話表現などの発展的・応用的な分野の理解に結び付いていない。**

◇中学校英語の基本的な定型表現はある程度身に付いている。
◆高校で初めて学習する文法・構文を活用できるレベルまで到達していない。

⇒ **課題 3：高校段階で学習する文法や構文を使って、英文を構成する力が不足している。**

◇平易な単語から類推し、長文の大まかな内容を把握することはできる。
◆書き手の意図をくみ取って読解するために、多くの情報を整理し、正確に理解する力が不足している。

⇒ **課題 4：書き手の意図をくみ取り、情報を整理し、順序だてて理解を深めるような「実践的な読み」が不足している。**

◎改善の方向



①聞き取りの力を向上させるために、英語を聞かせる機会を多く設けると同時に、理解の土台となる語彙力を増やす指導の工夫を行う。

- ・生徒のつまずきの段階を把握し、必要に応じて「中学校での学習内容の学び直し」も含め、基本的な事項の定着を図る。
- ・英語を聞く機会を多く確保する。
- ・生徒に聞き取りのためのポイントやヒントを随時与えて、目的を持ったリスニングを多く経験させる。
- ・正確な聞き取りと記憶を助けるためのメモの取り方等を身に付けさせるよう指導を行う。

②語彙力、文法・語法力を養うとともに、バランスよく会話表現の指導にも力を入れるために、相乗的な効果をねらって、文法と会話を有機的に結び付けた学習機会を設定する。

- ・小テストなどの基礎的なトレーニングを繰り返すことにより、語彙・文法などの知識の定着を図る。
- ・生徒の実態を考慮しながら、オーラル・コミュニケーション以外の授業でも英語使用の機会を増やす。
- ・ALTを活用した会話中心の授業においても、既習の単語・文法事項を仲立ちとして、語彙力・文法力の向上に関連づける。

③表現する力を育成するために、英語で書いたり話したりするためのタスクの活用を図る。

- ・新出の文法や構文は理解させるだけでなく、説明した後に整序作文や自由作文などに取り組みせ、実際に使う機会を与える。
- ・コミュニケーション活動において、練習させたい文法・構文を何度も使うようなタスクを工夫する。
- ・単語や熟語はできる限り文または句の単位で練習させる。
- ・小テストで単語・熟語だけでなく、新出の文法や構文を使った簡単な英文も書かせる。

④読む力を養うために、基本的な構文の定着と運用力の向上を図る。その上で、英文を正しく理解しながら筆者の意図を読み取り、さらに読み手の考えを相互に適切に伝えあう力の育成を図る。

- ・文法事項を定着させるための取組を強化する。
- ・授業内で、音読・暗写・dictation・要約・意見発表等、生徒が英語を実際に使用したり、outputのための時間を十分に確保する。
- ・教科書以外でも良質な長文を吟味・選択し、多読させる。
- ・英語特有の論理構造の理解を促すために、スキミングやスキヤニング、パラグラフ・リーディング等様々な読解指導を体系的に行う。
- ・Q and A や T or F 等によって、日本語を介さずに英語による理解を促す。

3 1学年意識調査の結果と分析状況 ※過去の1年生との比較

(「H17全国高3」は全国の高3のデータで、文部科学省実施の平成17年度高等学校教育課程実施状況調査結果による。また、回答率において「無回答」の割合は省略。)

(1)「現在最も強く希望している進路は」 大学進学希望者が増加傾向

	大 学	短期大学	専門学校	就 職	その他	未 定
H21	45.3%	3.3%	16.2%	19.8%	1.8%	13.5%
H20	44.3%	3.6%	15.8%	19.4%	2.0%	13.9%
H19	43.1%	3.3%	16.6%	20.9%	2.0%	13.2%
H18	41.6%	3.6%	17.8%	20.3%	1.8%	13.9%
H17	41.9%	4.0%	18.3%	19.8%	2.1%	13.1%
H17全国高3	52.5%	6.7%	19.4%	19.2%	1.8%	0.4%

<分析>
大学進学

図4 進路希望別の割合の推移

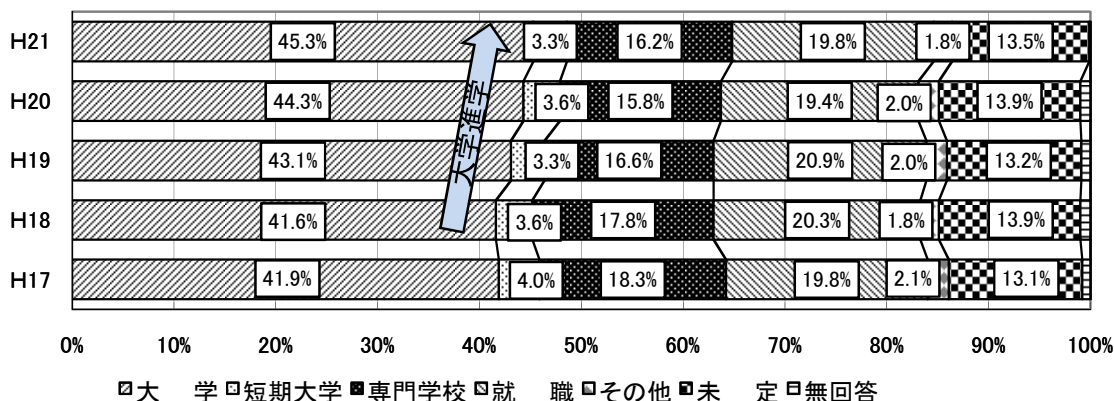
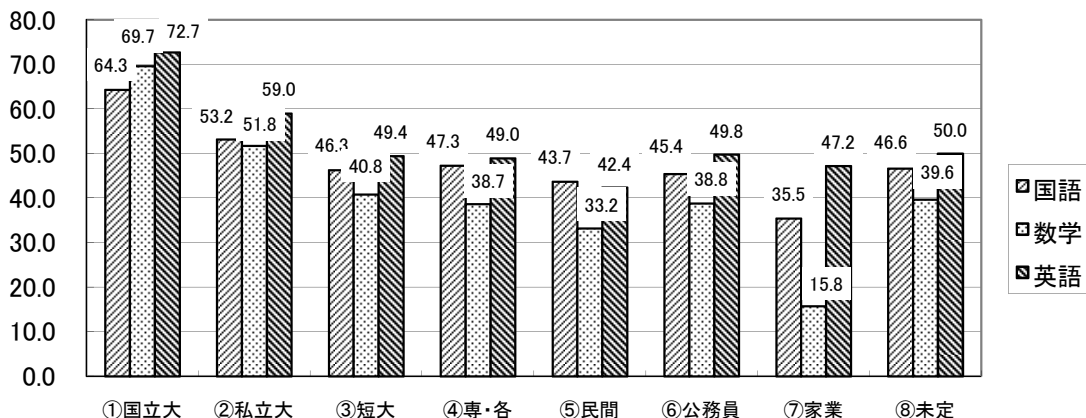


図5 進路希望別の国語・数学の正答率

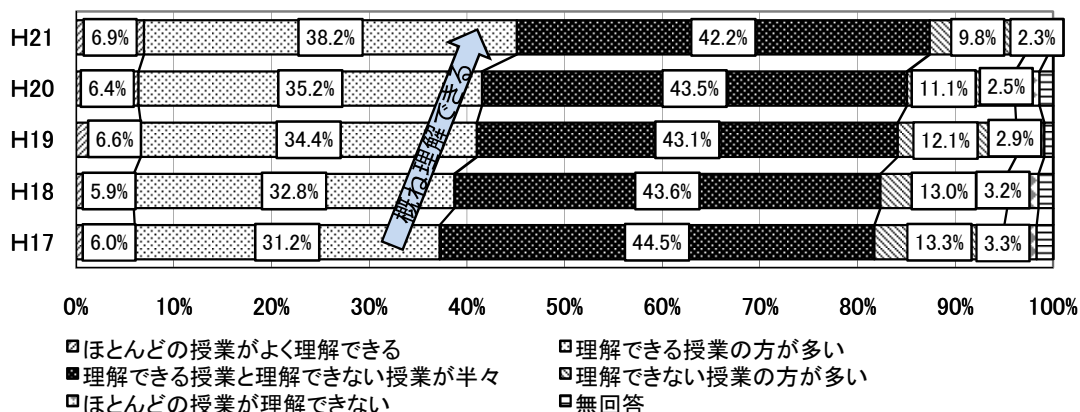


(2)「授業がどのくらい理解できるか」 「授業が理解できる」が増加

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多	ほとんどの授業が理解できない
H21	6.9%	38.2%	42.2%	9.8%	2.3%
H20	6.4%	35.2%	43.5%	11.1%	2.5%
H19	6.6%	34.4%	43.1%	12.1%	2.9%
H18	5.9%	32.8%	43.6%	13.0%	3.2%
H17	6.0%	31.2%	44.5%	13.3%	3.3%
H17全国高3	4.3%	37.0%	39.9%	14.2%	3.6%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が45.1%で昨年度より3.5ポイントの大幅増加。

図6 授業理解度の割合の推移



(3)「受けたい授業はどんな授業か」

「分かる授業」「興味関心がもてる授業」を期待

	基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業	発展的な内容まで教えてくれる授業	興味や関心がもてる授業	進路希望達成につながる授業	資格取得につながる授業
H21	35.4%	6.3%	38.9%	13.9%	5.3%
H20	35.1%	6.6%	39.0%	12.9%	5.3%
H19	36.5%	6.5%	38.2%	13.1%	4.8%
H18	35.6%	6.5%	38.5%	12.7%	5.5%
H17	35.1%	6.1%	39.8%	12.5%	5.9%

<分析>受けたい授業としては、1位「興味関心がもてる授業」(38.9%)、2位「基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業」(35.4%)。

(4)「平日の学習時間」

学習時間は全体的に増加傾向、2~3時間集中した学習が効果的

平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、家庭学習(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間~	3時間~	2時間~	1時間~	30分~	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
H21	0.3%	0.5%	2.3%	11.4%	25.4%	17.2%	12.4%	30.4%
H20	0.3%	0.5%	2.3%	10.5%	24.2%	17.2%	11.9%	32.4%
H19	0.3%	0.4%	2.1%	10.3%	23.5%	16.2%	13.1%	33.3%
H18	0.2%	0.4%	2.1%	9.8%	22.6%	17.0%	12.7%	33.9%
H17	0.3%	0.5%	2.5%	10.4%	21.0%	15.7%	12.6%	36.7%
H17全国高3		23.9%		10.8%	9.8%	7.6%	8.2%	39.3%

<分析>平日の学習時間は昨年度よりも「2時間以上」が0.9ポイント増加、「全く、ほとんどしない」が2.0ポイント減少。

図7 家庭学習時間の割合の推移

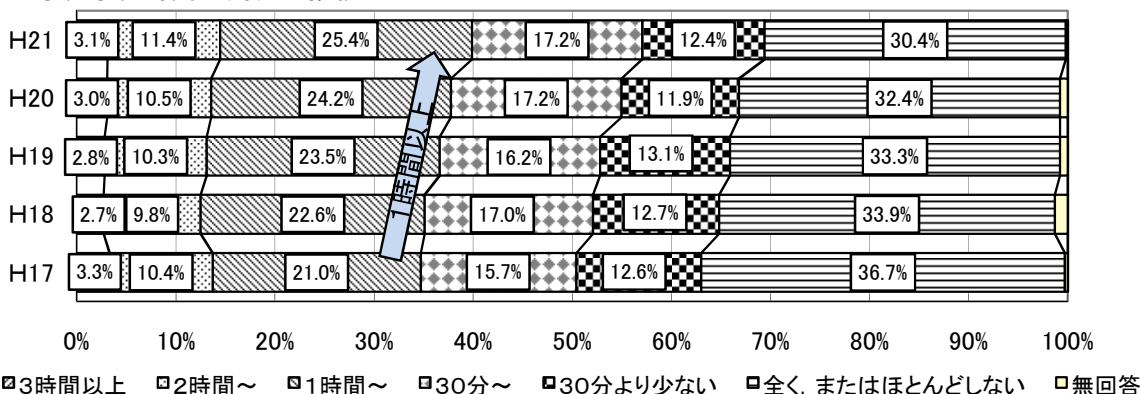
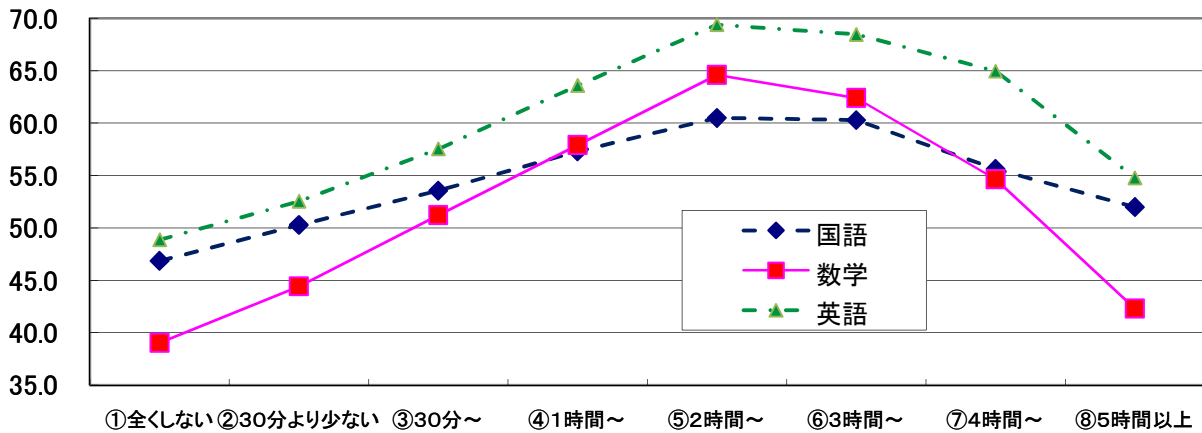


図8 家庭学習時間と各教科の正答率との関係



(5)「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒の増加は頭打ち

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題 があるとき	宿題・課題 や考査前	塾・予備校がある 時や家庭教師 がくるとき	気が向いたとき	ほとんど しない	その他
H21	15.7%	5.1%	7.0%	15.5%	5.9%	25.8%	1.5%	13.3%	8.7%	1.5%
H20	15.8%	4.4%	6.6%	15.3%	5.5%	24.8%	1.5%	13.7%	10.4%	1.2%
H19	14.1%	4.5%	6.8%	7.2%	4.4%	36.0%	1.5%	13.3%	10.5%	1.0%
H18	13.0%	4.5%	6.0%	7.6%	5.1%	36.1%	1.6%	13.3%	10.8%	1.1%
H17	12.8%	4.3%	6.6%	8.1%	4.4%	34.8%	1.8%	13.7%	12.0%	1.0%

<分析> 「主に平日学習している」は昨年度より0.7ポイント増加。

(6)「学校での宿題・課題, 小テストの割合」

宿題・課題, 小テストが家庭学習習慣に影響

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

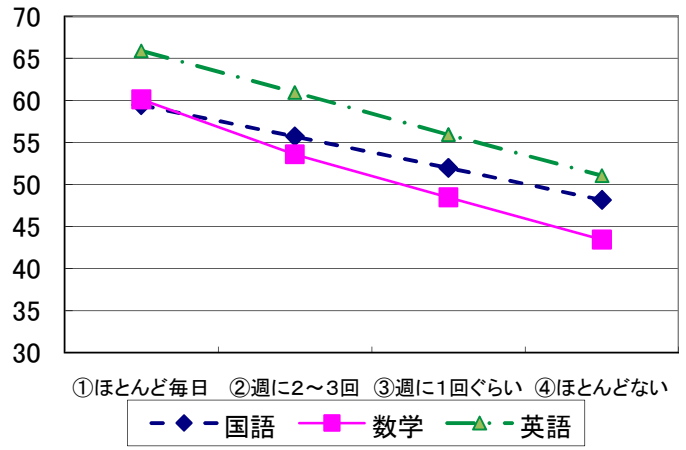
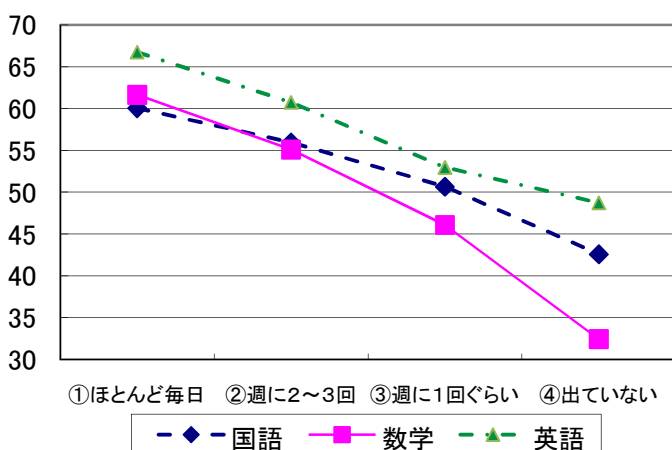
	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回ぐらい	ほとんど出 ていない
H21	17.4%	34.4%	33.9%	14.1%
H20	15.4%	33.5%	36.7%	13.6%
H19	14.9%	36.2%	31.1%	16.5%

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回 ぐらい	ほとんどない
H21	11.9%	31.2%	31.5%	25.1%
H20	11.1%	31.1%	32.6%	24.3%

※H20に新設した質問

図9 宿題・課題の割合と国語・数学の正答率との関係

図10 小テストの割合と国語・数学の正答率との関係



(7)「家庭学習をする上で悩んでいること」

「部活動との両立」は減少、「集中できない」が増加傾向

	方法が分 からない	集中でき ない	計画が長 続きしな い	部活動と の両立	成績が 伸びない	その他	特になし
H21	14.8%	27.3%	15.1%	18.5%	6.7%	3.4%	14.1%
H20	14.4%	26.4%	14.5%	18.6%	6.6%	3.7%	14.8%
H19	13.7%	25.2%	14.5%	21.2%	5.9%	3.5%	15.0%
H18	14.2%	25.3%	14.2%	21.1%	5.6%	3.6%	14.1%
H17	15.3%	26.0%	13.9%	20.9%	5.2%	3.5%	14.2%

<分析> 学習上の悩みは「集中できない」が最も多い。「計画が長続きしない」も増加。

(8)「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」 「電話やメール」は減少、ゲーム・パソコンは増加傾向

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやパソコン	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H21	6.4%	25.1%	14.0%	18.3%	3.6%	16.1%	4.3%	1.3%	10.7%
H20	6.3%	24.3%	12.1%	19.7%	3.5%	16.4%	3.9%	1.4%	11.1%
H19	5.5%	23.9%	10.7%	22.0%	3.9%	16.5%	3.7%	1.2%	10.7%
H18	5.5%	23.4%	4.3%	20.3%	3.8%	23.2%	3.7%	1.3%	11.8%
H17	5.6%	28.8%	4.5%	16.9%	3.8%	22.3%	3.5%	1.3%	11.4%

*「ゲームやパソコン」の項目は、H18までは「ゲーム」のみでの調査である。

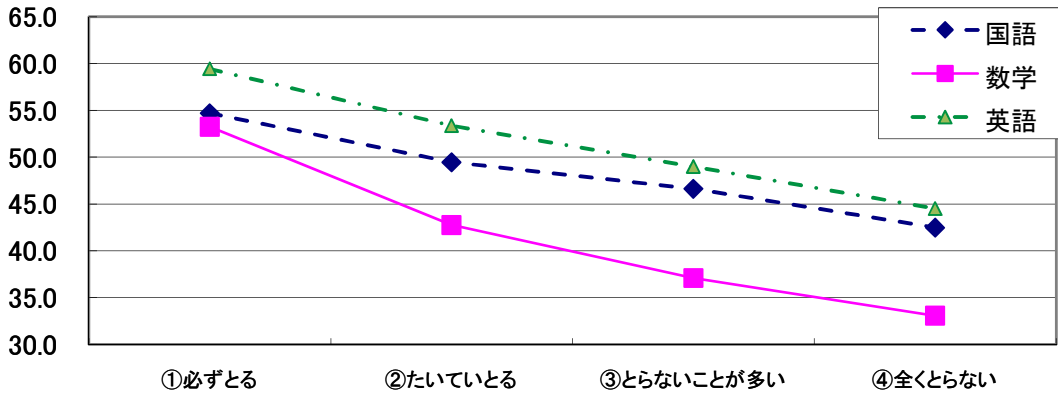
<分析> 1位が「テレビやビデオ」(25.1%)、3位「ゲームやパソコン」(14.0%)は共に増加、2位は「電話やメール」(18.3%)は1.4ポイント減少。

(9)「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる生徒は増加、正答率と相関が高い

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H21	77.2%	13.0%	5.1%	4.4%
H20	74.0%	14.5%	5.9%	4.9%
H19	71.6%	15.4%	6.2%	5.0%

<分析> 朝食を必ずとる生徒は、3.2ポイント増加で、とらない生徒よりも正答率が高い。



4 2学年意識調査の結果と分析状況

※1年次・前年の2年生との比較

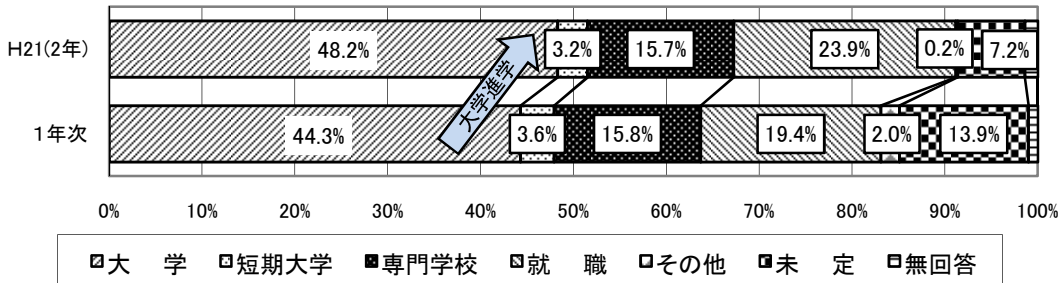
(1)「現在最も強く希望している進路は」

進路希望が1年次より一層明確化

	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定
H21(2年)	48.2%	3.2%	15.7%	23.9%	0.2%	7.2%
1年次	44.3%	3.6%	15.8%	19.4%	2.0%	13.9%

<分析> 未定者が減少し、大学進学希望者は3.9ポイント、就職希望者は4.5ポイント増加。

図11 進路希望別の割合の推移



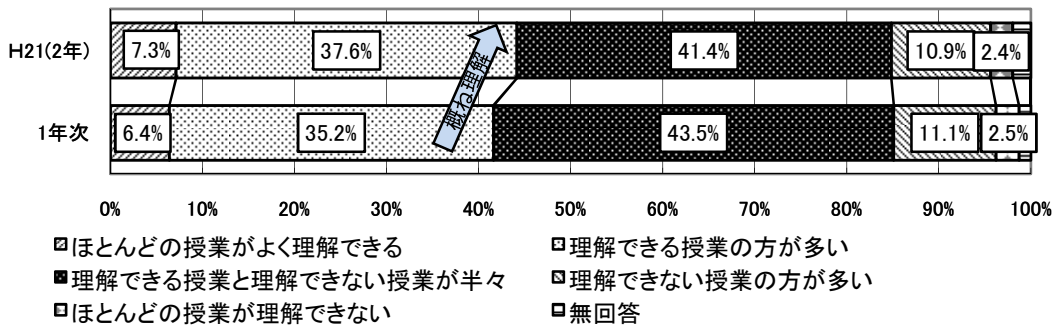
(2)「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が1年次よりも増加

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H21(2年)	7.3%	37.6%	41.4%	10.9%	2.4%
1年次	6.4%	35.2%	43.5%	11.1%	2.5%
前年2年	7.4%	36.4%	41.1%	10.4%	2.7%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が1年次より3.3ポイント増加。

図12 授業理解度の割合の推移



(3)「平日の学習時間」

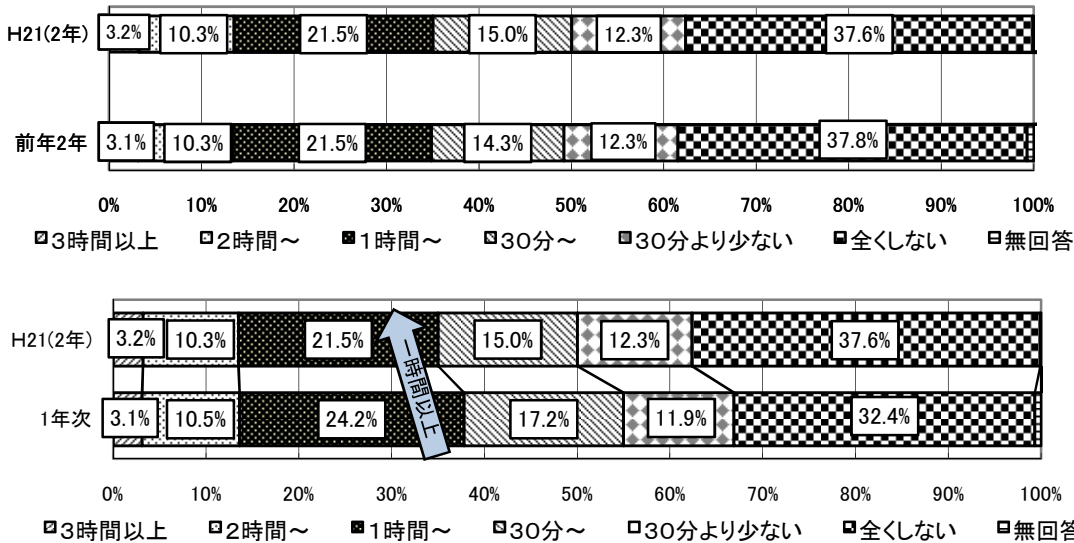
「全くしない」が1年次よりも増加

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
H21(2年)	0.3%	0.5%	2.4%	10.3%	21.5%	15.0%	12.3%	37.6%
1年次	0.3%	0.5%	2.3%	10.5%	24.2%	17.2%	11.9%	32.4%
前年2年	0.4%	0.4%	2.3%	10.3%	21.5%	14.3%	12.3%	37.8%

<分析> 「全くしない」は1年次より5.2ポイント増加、「2時間以上」は固定化。前年2年生とは傾向が変わらない。

図13 家庭学習時間の割合の推移



(4)「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒が減少傾向

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題があるとき	宿題・課題や考査前	塾・予備校がある時や家庭教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんどしない	その他
H21(2年)	15.0%	4.4%	5.6%	19.2%	4.8%	24.9%	1.3%	11.4%	12.1%	1.4%
1年次	15.8%	4.4%	6.6%	15.3%	5.5%	24.8%	1.5%	13.7%	10.4%	1.2%
前年2年	15.2%	4.5%	5.4%	19.9%	4.3%	23.9%	1.6%	11.4%	11.8%	1.2%

<分析> 「ほぼ毎日学習している」は1年次より0.8ポイント、前年より0.2ポイント減少。

(5)「学校での宿題・課題，小テストの割合」
＜学校からの宿題・課題の割合＞

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回ぐらい	ほとんど出ていない
H21(2年)	11.9%	28.3%	39.1%	20.4%
1年次	15.4%	33.5%	36.7%	13.6%
前年2年	11.1%	28.8%	40.1%	19.3%

＜分析＞「週に毎日または2～3回」宿題・課題が出されるのは，1年次より8.7ポイント減少。

1年次より宿題・課題が減少，小テストは二極化傾向
＜学校での小テストの割合＞

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回ぐらい	ほとんどない
H21(2年)	12.1%	31.4%	28.3%	28.1%
1年次	11.1%	31.1%	32.6%	24.3%
前年2年	9.4%	35.2%	28.1%	26.6%

(6)「家庭学習をする上で悩んでいること」

「集中できない」が増加，「部活動との両立」「方法が分からない」は減少

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H21(2年)	13.4%	29.5%	15.7%	14.8%	6.9%	3.7%	15.9%
1年次	14.4%	26.4%	14.5%	18.6%	6.6%	3.7%	14.8%
前年2年	12.7%	28.6%	15.5%	16.1%	6.3%	4.5%	15.5%

＜分析＞「集中できない」が1年次より3.1ポイント増加。「部活動との両立」は3.8ポイント減少。

(7)「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」

「電話やメール」は減少，ゲーム・パソコンは増加傾向

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやパソコン	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H21(2年)	6.1%	26.3%	15.0%	16.0%	3.2%	16.6%	3.9%	1.5%	11.1%
1年次	6.3%	24.3%	12.1%	19.7%	3.5%	16.4%	3.9%	1.4%	11.1%
前年2年	5.7%	25.3%	12.2%	18.1%	3.8%	16.7%	3.7%	1.3%	12.1%

＜分析＞「テレビやビデオ」「パソコン」が1年次より増加，「電話やメール」は減少。

(8)「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる生徒は前年より増加，1年次で生活習慣が決まる

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H21(2年)	73.5%	14.3%	6.1%	5.9%
1年次	74.0%	14.5%	5.9%	4.9%
前年2年	71.9%	14.3%	6.8%	6.1%

＜分析＞朝食を必ずとる習慣は1年次のとくと変わらないが，前年よりも増加。

Ⅲ 学力向上に向けた今後の取組

【各学校】

各学校では、新しい高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、必要に応じて義務教育段階の学習内容の確実な定着を図る指導を適宜取り入れるなどの工夫をした上で、授業の質の向上と家庭学習の充実に向けた取組を行い、「確かな学力」の育成を目指す。

○授業改善の推進

「授業が理解できる」と回答した生徒の割合が過去5年連続して増加しており、各学校とも授業改善に努めてきた結果が表れている。ただし、「理解できる授業と理解できない授業が半々」、「理解できない授業の方が多い」、「ほとんどの授業が理解できない」と回答した生徒は1・2学年とも約50%を超えており、分かる授業実現に向け、一層授業改善を進める。

○家庭学習の記録簿や宿題・小テストを利用した学習時間の確保

「ほぼ毎日勉強する」と答える生徒が1年、2年とも減少しているが、勉強するのは「宿題・課題がある時や考査前」と答える生徒が多いことから、家庭学習の習慣付けのため、休日も含めて家庭学習の計画を立てることの指導や、適度な量と質の宿題を課すこと・授業において小テストを実施することなどを指導計画に取り入れる工夫をする。

○学校と家庭の連携

家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから、学校と家庭が連携して家庭学習を推進する。



【教育委員会】

宮城県教育委員会では、新高等学校学習指導要領の趣旨の周知に努めるとともに、高校生の学力向上に向けて各種事業に取り組み、各高校を支援する。

